

民主青年新聞

DEMOCRATIC YOUTH NEWSPAPER

みどころ

大学進学費用について

新コーナー 新加盟者インタビュー

皇室典範改定と天皇の制度

6、7面

2面

10、11面

▶ ホームページ www.dylj.or.jp ▶ Eメール minsins@dylj.or.jp

▲靖国神社（東京都千代田区、「しんぶん赤旗」提供）

侵略戦争を美化する「ゆがんだ歴史観」

政治家の靖国神社参拝を考える

8月15日、小泉進次郎防衛相などの閣僚や自民党の鈴木俊一幹事長ら党幹部、その他、日本維新の会、国民民主党、参政党、チームみらいの議員が靖国神社に参拝しました。そもそも靖国神社とはどのような施設で、そこに参拝することはどのような意味を持つのか、明治大学文学部教授の山田朗さんに聞きました。（齊藤宗記者）

政府側の軍人を祀る施設

「そもそも靖国神社とはどのような場所なのですか？」明治時代の1869年に、明治天皇の指示で、新政府軍と旧幕府軍との間で戦われた戊辰戦争において戦死した軍人を祀るための施設として創建された「東京招魂社」が前身です。それが79年に「靖国神社」と改称されました。後に、

53年のペリー来航以降の「国事殉難者」（幕府軍によって殺害された人）と西南戦争（77年に西郷隆盛を中心起こった反乱）における政府軍戦死者、日清戦争以降の外国との戦争での戦死者を祀っています。いずれも天皇制政府の側であった軍人や軍属（軍人以外で、軍の仕事をしてた人）です。

1978年には、東京裁判（極東国際軍事裁判）でA級戦犯とされ処刑された東條英機元首相ら14人が合祀（一つの神社に複数の祭神を合わせて祀ること。靖国神社における祭神は祀られている軍人や政治家）されました。それ以前には、B、C級戦犯で刑死した人たちが合祀されています。さらに、朝鮮や台湾出身の軍人・軍属の戦死者も「日本軍人」として合祀されており、靖国神社に祀られている人は約24万6

千人に上ります。戦死者は本人や遺族の意思・希望や、信じていた宗教に関係なく「護国の英霊」と称されて合祀されました。一度祀られると、どのような事情があっても、個人が申請してそこから外してもらうことはできません。また、靖国神社には「遊就館」という博物館が併設されています。1882年に開館し、靖国神社に祀られている人々の遺品や兵器や資料などを保存・展示しています。しかし戦争の諸外国・諸民族への加害や、日本の民間人の犠牲について配慮されているとは、とても言えません。

靖国神社に祀られるのが栄誉

靖国神社に参拝すること、靖国神社に祀られることは、戦死者を祀る施設があるという問題があります。靖国神社とは、諸外国から見ると、戦争の遂行における一番の責任者であり、植民地支配の責任者です。それらの人々を神として祀るというのは、つまりその責任を全く曖昧にしていることと受け取られてしまっています。ここが一番大きな問題です。A級戦犯を合祀する前に、時の首相や天皇が参拝していたことは国際問題になりませんでした。しかし合祀して以降の首相による公式参拝は、国際問題の最大火種の一つであると考えています。外国にこの

東京裁判（極東国際軍事裁判）

1946年～48年に行われた、日本の指導者の戦争責任を裁いた裁判。この裁判で、侵略戦争を計画・準備・開始・遂行した「平和に対する罪」（a）、占領地での殺人や捕虜への虐待などの「戦争犯罪」（b）、「人道に対する罪」（c）などすべての罪で裁かれた犯罪人が「A級戦犯」。一般将兵がbとcの罪に問われた「B C級戦犯」と区別されて呼ばれる。

霊のあり方としても異様であり、戦争の責任者たちを神様としてまつことによって、加害行為を正当化しています。歴史学では「英霊サイクル」と呼ばれるものがあり、戦前の社会では、男の子は将来立派な軍人になって忠誠を尽くし、戦場で戦って死に、靖国神社に祀られるのが最高の栄誉である、と教えられてきました。この価値観は広く流布され、軍人たちが死に直面すると「靖国神社で会おう」と言いながら死んでいった場合もあります。これを次の世代が聞き「英霊」が「英霊」を呼ぶというサイクルです。自衛隊による靖国神社参拝も行われていますが、それはこの価値観が現在の自衛隊員にもたき込まれ、今なお循環している証といえます。（2面につづく）